



シマウマには、どうしてしまがあるの

仲間を見分ける目印

シマウマのしまや、キリンの模様は、よく見ると、種類によって、少しずつしまや、模様の入り方などが、ちがっています。広い草原で、シマウマやキリンなどは、このしまや模様によって、遠くからでも同じ仲間であるかどうかを見分けています。

しま模様で、敵の目をくらます

シマウマのしまは、敵の目をくらますのにも、役立っています。ライオンなどがシマウマをおそうときは、必ず1頭にねらいをつけて追いかけて回し、群から引きはなしてからとびかかります。ところが、1頭だけで見ると目立つしま模様が、たくさん集まって群になって動いていると、ねらった1頭が、どれなのかすぐわからなくなり、ライオンはシマウマをおそえなくなるのです。

においと、しま模様でお母さんを見分ける

シマウマが赤ちゃんを産んだときは、しばらく群からはなれて、親子だけで過ごします。これは、群の中でくらす赤ちゃんに、お母さんのにおいと、しま模様を覚えさせ、少しずつちがうしま模様から、お母さんを見分けられるようにするため、ともいわれています。

(監修・今泉 忠明)

種類によってちがうしま模様

